

基地局に設置した AI 搭載カメラによるクマの出没検知システムの実証実験を開始 ～自然環境の保全と人間社会の安全を両立し、「ネイチャーポジティブ」実現への貢献をめざす～

株式会社 NTT ドコモ（以下、ドコモ）は、北海道内にある基地局に画像認識 AI と連携した監視カメラを設置し、クマの出没をリアルタイムで検知する実証実験（以下、本取り組み）を 2026 年 5 月 22 日（金）から開始します。本取り組みは、ドコモの通信設備と AI 技術を活用し、自然環境の保全と人間社会の安全を両立させ、「ネイチャーポジティブ」実現への貢献をめざすもので、2025 年 5 月に策定した「生物多様性中期ロードマップ^{※1}」の取り組みの一環です。

■ 背景

昨今のクマの生息域拡大に伴い、令和 7 年度におけるヒグマ人身被害件数は 230 件を超え、死亡事故は 13 件となりました。また、冬眠が明けた令和 8 年度においては、すでに 7 件の緊急銃猟発砲事例が発生しており、状況は深刻化しています^{※2}。さらに、対策の要となるハンターの高齢化・人材不足といった課題も顕在化しています。

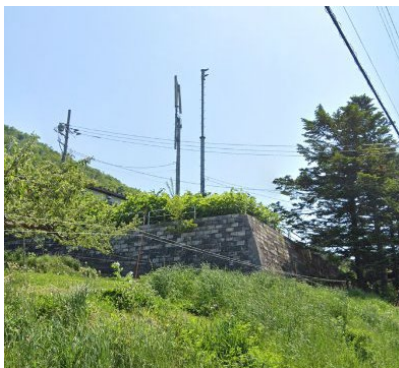
広大な地域では人手による常時監視には限界があることから、住民の安全確保に向けて、保護重視の対策から ICT を活用した監視各関係機関と連携した対策など包括的な防衛体制への移行が急務となっています。

■ 取り組み概要

北海道にある基地局 2 局に画像認識 AI と連携した監視カメラを設置し、撮影映像をリアルタイムで解析することで、クマの出没を検知します。

特徴① 基地局設備の活用

基地局周辺では安定したモバイルネットワークが整備されており、ルーラルエリアにおいてもリアルタイムでの映像伝送や迅速な通知が可能です。また、既存設備を活用することで、環境負荷と導入コストを最小限に抑えることができ、将来的には広大なエリアを監視できる点もメリットです。



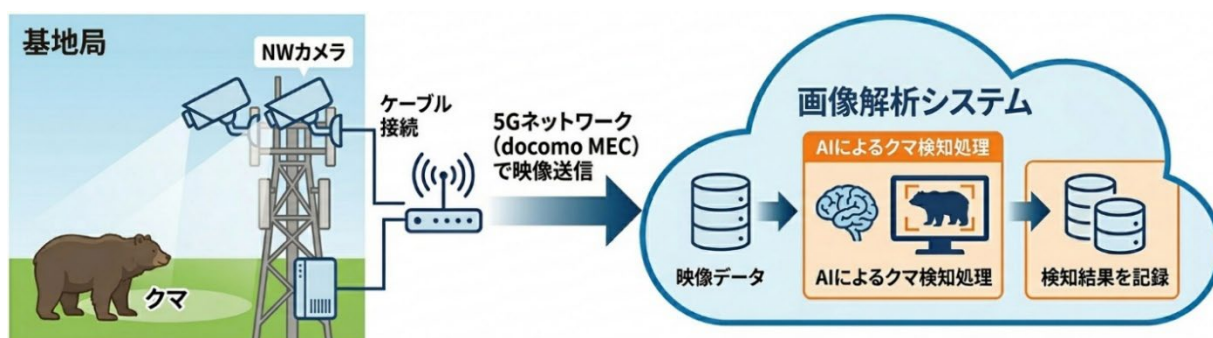
<山の手の基地局>



<白川の基地局>

特徴②画像認識 AI によるクマの出没検知

基地局に設置したカメラ映像を画像認識 AI で解析し、クマの出没を検知します。昼夜を問わず出没する可能性があるアーバンベアを見逃さないため、照明条件などの環境変動下でも安定して検知できる性能をめざします。高速に推論可能な画像認識 AI を、低遅延な docomo MEC 上で動作させることで、リアルタイムな検知を可能にします。



<実証イメージ>

■ 実証期間

2026年5月22日（金）～11月30日（月） 予定

■ 今後の展望

北海道での実証を通じてシステムの有効性と精度を検証し、その成果をもとに将来的にはクマ被害に悩む自治体向けの展開をめざします。必要に応じてクマ出現位置のマッピング、関係機関への迅速な通知、威嚇音の発報指令までを行う総合的なシステムを実装し、クマをはじめとする野生動物と人間との軋轢を緩和した、より安全で快適な社会の実現に貢献します。

さらに、野生動物の農業地区や居住区への侵入を抑制し、地域住民の生活環境を守るための新たな電気柵および関連技術の検討や開発も進めています。クマを含む野生動物との適切な距離を保つことで、安全で快適な社会の実現に貢献します。

ドコモは本取り組みを通じて地域課題を解決するとともに、「生物多様性中期ロードマップ」に掲げる「ヒトと自然が“あたりまえに”共生している世界」の実現に貢献してまいります。

※ 1 [生物多様性中期ロードマップ | 企業情報 | NTT ドコモ](#)

※ 2 [クマに関する各種情報・取組 || 野生鳥獣の保護及び管理\[環境省\]](#)

本件に関する報道機関からのお問い合わせ先

株式会社 NTT ドコモ

経営企画部 GX ビジネス担当・サステナビリティ推進室

R&D 戦略部、クロステック開発部

メールアドレス：docomo-bear-forest-pj@ml.nttdocomo.com